

スクールカウンセラーたより 7

2学期も半月が過ぎようとしています。子ども達に疲れも出てくる時期かもしれません。そんな中、勉強とおしゃべりについて考えます。

家庭でどんな勉強をさせたら良いのか、いろいろな考えはありますが・・・

悩むところですね。宿題は当然やらなければならないですが、それ以外に何をさせるか、予習なのか、復習なのか、時間はどれぐらいなのかですが、予習がメインでも良いかなと思います。予習をすることで、次の日に何を学習するかイメージができ、授業参加へのモチベーションが上がります。また、1問でもやっていれば授業中に手を上げることも出来ます。復習は授業中に一度区切りをつけた内容なのであまりやりたがらない子どももいます。予習も、沢山の宿題を終えた後だとあまりやる気は出ないかもしれません。勉強にモチベーションが上がらない子どもは短時間、教科書を眺める程度でもいいと思います。学習の準備をする時間を使って教科書を眺める程度でも良いかもしれません。



「何回言ったらわかるの？」は学ぶ意欲を無くす・・・

勉強が苦手な子の中では記憶が弱い子も居ます。何回言われても忘れてしまう。同じ事を何回も繰り返して聞いてくる子。そんな子はさっき聞いたことも忘れてしまうことで、何度も同じ事を聞いてきます。

本来は覚えたい（学びたい）という気持ちは強いから質問するのですが、うまく覚えられない。忘れてしまう。そういう子が「何回言ったらわかるの？」と言われたら、「次に聞いたら、又怒られる。」という気持ちになり、聞くことを諦めます。つまり、学ぶことを諦めてしまいます。そういう子には大切なことを覚える手立てを教える必要ですね。大切なことはメモをとるという習慣をつけたいですね。また、絵や図にしてあげるとイメージがわきやすい子もいますね。



まとまりのない話をずっと話し続ける子には、何を話したいかを考えさせたい・・・

お話が大好きだけど、記憶が弱い子の中には、同じ事を何回も繰り返して話してくる子どももいます。そういう子は授業中の発表でも、思いをうまく説明が出来ない事が多いです。

トレーニングとしてお話の前に少しの時間、何を話そうかのイメージをさせてみるのも良いかもしれません。また、聞く方も話を聞くときに、時間の見通しを持たせ、最初に「今日は～をしなければならない（理由）ので〇分（時間を切る）までね。何を話したいかを考えてから話してね。（内容の整理）」とすると、話の練習になるかもしれません。時間に余裕があるときは事前に話したい内容を簡単にメモさせてから話をするようにしていくと発表の練習になるかもしれません。



もちろん、普段は出来るだけ条件をつけずに、思いのまま話せるような雰囲気も必要です。そして、こういうことを言いたいかなと確認してあげると、自分の思いを理解してもらえたという達成感につながっていくかもしれません。

おしゃべりは心のバランスを保つもの・・・

お年寄りはお話が好きな人ほど元気が一杯。また、話を聞いてくれる人が居ると、沢山話をする中で表情も豊かになり、元気になってきます。おしゃべりはストレス発散の方法の一つ。子どもたちも同様で、沢山話す子ほど意外とストレスは抱えていません。ですから沢山お話を聞いてあげて欲しいのです。無条件に聞いてあげて欲しいのです。

但し、友達の悪口や明らかに間違っていることなどについては最後にきちんと間違っていることを伝えていかないと、それが正しいと言うことになってしまうので《アイ（私）・メッセージ》として「お母さんは、そう思わない」「お母さんは、違うと思う」と伝えて欲しいです。大切なのは「お母さんは～」というメッセージの出し方で「先生は～と思うんじゃない？」では、伝わりません。お母さんがきちんと判断した言葉として伝えることに意味があるのです。お母さんは君のことをきちんと考えているよ。しっかり見ているよということを伝えることも大切です。



あまり話さない子ほど、心の中では沢山話をしている・・・

子どもの中では無口な子も居ます。無口な子でも何も考えていないわけではありません。無口な子ほど心の中で沢山の言葉を話しています。それをたまたま表現しただけです。子どもの中にはお話が苦手な子もいます。また、何かの原因があって緊張状態にいるかもしれません。そういう子には、ゆっくりとした時間の流れを作ってあげたいものです。



あまり話さない子には活動の中で自分の思いを表現できる場があると良いかもしれません。絵が好きな子には絵の世界で。文章が好きな子は詩の中で。動く事が好きな子はダンスも良いでしょう。音楽が好きな子は音楽の中で表現させても良いでしょう。言葉にはならない様々な思いを表現できる場があると良いかもしれません。もちろんお手伝い、お仕事のなかでも良いのです。

黙っている時間も大切にしたい・・・

いろいろ話しているうちに、子どもたちは黙って自分の考えをまとめていくときがあります。自分の言葉で内容を整理したり、考えを深めたりしている時間です。そういうときは、黙って言葉を待ってあげることも必要です。大切なのは子どもが自分の言葉で話し出すまで静かに待ってあげることです。



会話のスタートは朝の挨拶から・・・

子どもたちが、朝から笑顔でスタートするためには、まずは笑顔での挨拶からスタートしたいものです。挨拶は人との関係を作る基本となるものですし、大人がしっかりと教えていくべきものです。また、コミュニケーションの力を高める基本となるものです。その為、まずは大人が見本を見せていき、子どもにもしっかりと求めていくことが必要だと考えます。忙しい朝であっても、まずは笑顔で「おはよう」と声をかけてあげたいです。また子どもたちからも「おはよう」という言葉を求めていき、1日を笑顔でスタートできるようにしていきたいですね。

